

学校だより

耀う

(かがよう)



八戸市立下長中学校 TEL 28-2745 FAX 21-1191
URL http://www.hachinohe.ed.jp/simong_j/

文化祭への多数のご来場、ありがとうございました

文化祭では、保護者や地域の方々のご来場をいただき、本当にありがとうございました。今年の文化祭では、ステージでの熱演や会場の一体感、展示作品の丁寧な制作や展示方法の工夫など、どれをとっても年々成長が見て取れ、大変すばらしい文化祭となりました。



特に3年生の演劇では、短期間ながら、よくここまで仕上げる事が出来たものだと、本当に感心しました。やはり、3年生の感受性があることでしょうし、そして、それを育む土壌があったということだと思います。

音楽や演劇、絵画などすばらしい作品には、きちんとそれを鑑賞し、評価してくれる人がいなければなりません。

今年は特に、下中生全体が、良き制作者、鑑賞者であったと思います。下中生全体の成長を感じた一日でした。

3年生入試説明会行われる。

11月6日に3年生の入試説明会を行いました。いよいよ受験本番です。

「人生は選択の連続だ。」といった人がいます。例えば朝何を食うとか、何を着るとかの小さいことから、どの高校に進むかに始まり、就職、結婚と人生を左右するような大きなことまで、一つ一つ自分で決めていかなければなりません。

もちろん、先生、両親を始めとしている人の方に相談することは大事なことです。最後の1歩は自分の足で歩み始めないといけません。これを自立と言います。

学級、学年全体で互いに切磋琢磨しましょう。苦しいことは、みんなでわっしょい、わっしょいと頑張ることが大事なのです。

発明くふう展 「さっと簡単安心コンパクト物干し」 全国大会へ

2年生の井上叶光さんが、発明くふう展に出展した作品「さっと簡単安心コンパクト物干し」が、県大会に於いて、青森県議会議長賞に輝き、現在全国大会に出展しています。

工夫したところは、ハンガーをロープを使い均等な間隔で伸ばしたり、引き寄せたりすることができること。これにより、洗濯物をかけたり、外したりすることが手軽に出来るようになることとです。

全国大会でも好成績を残すといいですね。



教育講演会において下さい。



11月20日(金)、14:00から、本校体育館で教育講演会を行います。

講師は佐々木次彦さん。

佐々木さんは高館小学校に3年生まで通い、4年生から、下長小学校に、(当時は、高館小学校は下長小学校の分校でしたので、4年生からは下長小学校に通いました。)そして、下長中学校、八戸高等学校から音楽大学に進み、現在は、映画「クイール」「血と骨」「舞妓 Haaan」「サイドカーに犬」などの音楽プロデュースの他にコンサートやオペラの制作も手掛けています。

私たちに一番なじみがあるのは、「あまちゃん」の音楽かと思います。

八戸ではあまり聞いたことのない音楽プロデュースの仕事とはどんな仕事なのか、どんなきっかけでこの道に進んだのか、仕事をする上でどんな力を身につけておかなければならないのか等、いっぱい話してくれるものと思います。

佐々木さんの音楽に対する考え方を、載せておきました。繊細ですね、ここまで深く音楽のことを考えているとは…。講演会が楽しみです。

「音に携わる職業に就いて二十数年たった今でも、“音”が人の心に働きかける不思議な力を持っていることを思い知らされる瞬間があります。特に映画で使われる音は、ほんの小さなことが変わっただけで、そこから得られる印象がまったく違う場合があるのです。

例えば同じ音楽を同じ大きさで流しても、スタートするタイミングがほんの数秒違うだけで印象は変わってきますし、ましてや音色や音の大きさのちょっとした違いによる印象の差異は言うまでもありません。

悲しい場面には悲しい音楽をつけることが多い映画でも、逆に陽気な音楽や感情を表に出さないたんたんとした音楽をつけたことで、より一層悲しさを増す場合もあります。聞こえてくる音のキャラクターによって、悲しいはずが楽しかったり、楽しいことが悲しくも感じられるのです。

このように音への人の感じ方は複雑で、しかも決まった公式がないために、私はいろいろな映画を担当する度に新たな驚きに出会えていると思っています。

音が持つ“人の心を揺さぶる力”は、“感動”というかたちで心に残ります。それは決して音の種類や質のよしあしだけに関係しません。またクラシック音楽だからとか技術的に高いからという理由だけで感動するわけでもありません。もちろん世界の一流演奏家の演奏には感動するでしょうが、アマチュア演奏家にも同じような感動を感じるのです。これが音楽の一番の魅力だと、私は思っています。

中学・高校と八戸での吹奏楽に熱中した時に覚えた感動や、もっとさかのぼれば小学生の時に古い市民会館で聴いた『パリ木の十字架少年合唱団』は今でも忘れられません。そんな八戸での少年時代が、現在私が“音”にかかわることになった原点では…と昨今思っています。」

保護者の皆様、地域の方々、時間を見つけて、どうぞおいで下さい。